

厚生文教委員会視察報告書

視察日程：平成30年11月12日、13日

視察地：東京都 八王子市、稲城市

厚生文教委員

委員長	向江 英雄	副委員長	大庭 聖一
	岡田 昌司		大和屋 貴彦
	高橋 圭子		福岡 光秋
	新田 輝彦		中村 哲夫
	中藤 大助		

平成30年11月12日

視察先

東京都 八王子市

視察内容

「八王子市高齢者救急医療体制広域連絡会について」

地域包括ケアシステムのモデルとして評価の高い、八王子市高齢者救急医療体制広域連絡会（八高連）の活動を研修致しました。

高齢者の救急現場では、患者の医療情報の複雑さや状況把握の困難等で病院選定困難事案に発展しやすい事から、高齢者救急搬送に特化した八高連を2011年5月に設立。発足時より、医療機関だけでなく消防署、地域包括支援センターや施設を構成員とし、「オール八王子」で救急医療に取り組んでおられます。

患者の医療情報が乏しいという問題については、「救急情報シート」を活用し迅速な救急搬送を目指している事、更に救急情報シートにリビング・ウィルについて記載する欄を設け、患者本人の価値観について事前に話し合う事を促しています。

また、救急病院から慢性期病院へのスムーズな移行のため、慢性期病院は受け入れ可能な疾患や可能な医療処置を予めリスト化しています。

八高連発足後、八王子市内の65歳以上の救急活動時間が、現地到着から現地出発の時間、病院到着から引継ぎまでの時間、それぞれ大幅に短くなったとの事です。

八高連では関係者の「顔の見える連携」を実現する事で、在宅から急性期病院への円滑な搬送や、急性期病院と慢性期病院との連携強化等が図られています。

平成30年11月13日

視察先

東京都 稲城市

視察内容

「稲城市介護支援ボランティア制度について」

この事業は介護施設等でのボランティア活動を奨励し、高齢者の生きがいづくり・介護予防の推進を図る事を目的に、ボランティア活動に対して、換金可能なポイントを付与するというものです。

同市の取り組みが契機になり、介護保険制度を活用した事業として始まったもので、内容の差は多少あるものの、現在は全国約200の自治体で実施されています。

平成19年5月の厚生労働省の通知資料に、「介護保険制度を活用した高齢者のボランティア活動の支援について」があり、その中に「地域支援事業実施要綱を改正し、市町村の裁量により、地域支援事業として、介護支援ボランティア活動を推進する事業を行うことが可能であることを明確化した」とあります。

この事業が生活支援として効果的に実践されるためには、住民の方々に利用可能なインフォーマルサービスとして周知され、またそれに対応できる量と質の確保ができるかどうかは課題であると考えるところです。